

つながる防災・減災シンポジウム ～震災に学び、地域がつながる、未来につながる～

日時:2015年12月8日(火)13:00～17:00

会場:穂の国とよはし芸術劇場「プラット」アートスペース

【趣旨】

東日本大震災から5年が過ぎようとしています。復興はまだ道半ばです。一方、次の震災への備えも疎かにはできません。個人や企業等が防災・減災を個別に取り組むのではなく、お互いの経験や活動成果を共有する地域のつながりが、未来の安全安心につながると考えます。

本シンポジウムでは、つながる防災・減災をテーマに、震災の経験を踏まえ、いかに地域が連携して防災・減災に取り組むべきかを考えました。

【報告】

シンポジウムには、地元東三河地域からの申込者を中心として130名の参加者が、会場となった穂の国とよはし芸術劇場「プラット」アートスペースにご来場下さいました。



冒頭で、当センターが中心となり、三河港湾の企業・自治体の防災担当者等に対して実施している「地域地震防災コース」の取り組み状況と、東三河地域全体の防災力強化を目指して開設したウェブサイト「つながる防災」について報告したのち、基調講演として中島正愛教授（日本建築学会 会長/京都大学防災研究所）、話題提供として佐藤健教授（東北大学災害科学国際研究所）、新藤淳氏（損保ジャパン日本興亜リースクマネジメント(株)）、酒井浩久氏（トヨタ自動車(株)田原工場）にご講演頂きました。



基調講演 中島正愛教授 佐藤健教授 新藤淳氏 酒井浩久氏

その後、会場の参加者からの意見を交えながら、東三河地域の防災・減災のために、大学が中心となって日ごろから顔の見える関係を築いていくことの重要性など、活発な意見交換を行いました。

